

令和元年6月2日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12102

研究課題名(和文) 乳幼児を持つ夫婦のセクシュアリティを含めた夫婦関係と出生力：フィンランドとの比較

研究課題名(英文) Marital relationship and fertility including sexuality of couples who have small child/children: Comparison between Japan and Finland.

研究代表者

日高 陵好 (HIDAKA, RYOKO)

県立広島大学・私立大学の部局等(三原キャンパス)・教授

研究者番号：90348095

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究のデータ収集は2019年3月末で終了した。そのため現在、データを処理し解析をしながら成果の公表(論文)準備を進めている。研究成果は研究1と2の2回に分ける。研究成果1では、今回使用したセクシュアリティ尺度の信頼性・妥当性の確保のために因子分析を展開する。研究成果2では、研究成果1をもとに乳幼児を持つカップルの出生力と夫婦関係・セクシュアリティに関連性があるのか、日本の夫婦とフィンランドのカップルでは違いがあるのかという結果を公表する。パイロットスタディの夫婦(N=34)は、子どもを持つことでセクシュアリティへの満足は下降しても出生力は日本の合計特殊出生率より高い傾向があった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

最終的な結果の公表は2019年度になるが、この結果は、今後少子化への対応として何が必要かの新たな視点の提言を考えている。また、子どもを持つ夫婦への支援として、夫婦関係に着目した新たな方法を構築するための基礎資料となる。現在、妊娠期から育児期までの切れ目のない支援のために全国に「子育て世代包括支援センター」が設置され、保健師を中心に活動が活発化している。これまで母親への支援に目が向けられていたが、今後は家族支援の視点から、父親・母親への親になるための支援だけでなく、夫婦関係の再構築への支援への啓発につながると期待できる。

研究成果の概要(英文)：Data collection for this study has been done by March, 2019. Right now, we are analyzing the data and preparing to submit the articles within this year. The results are divided into two steps. The result 1 is the factor analysis for the Index of Sexuality Satisfaction in order to ensure the reliability and validity for the scale. The result 2 is to reveal the relations between fertility, couple relationship including sexuality and to see if there is any difference between Japanese couples and Finnish couples. We presents the results from pilot study as the preliminary results in June this year. The Japanese couples tend to have more children than fertility rate (1.42) although the sexuality satisfaction has the tendency to go down after they have a child.

研究分野：生涯発達看護学

キーワード：乳幼児を持つ夫婦 出生力 夫婦関係 セクシュアリティ 国際比較 家族看護

1. 研究開始当初の背景

わが国の出生力低下は、国の多くの政策にも関わらず解消されていない。民間調査では、多くの夫婦にとって「経済的理由」を第1として「第2子への壁」があるのではないかと指摘されている。発達生涯の視点からすると、この時期の夫婦は夫婦二人から、子どもを含めた三人にダイナミックに関係性が移行する時期とされ、夫婦にとっては2人の関係性の再構築が必要な時期であり、うまくいかない場合のリスクも懸念される時期である。こうした背景が出生力に何等かの影響を及ぼしているのではないだろうか。この時期の夫婦についての研究では、「夫婦間の意識のずれ」、「コミュニケーション不足」、「愛情の低下」等が明らかにされている。そうした状況が「産後クライシス」という造語にもつながっている。現在の日本は、女性の活躍が推進される一方で、根強い性別役割分業意識や男性の仕事への比重の大きさから、この時期の夫婦は家庭内で模索していることが考えられ、そこに理想の子ども数をもてないのかもしれない。この時期のわが国の夫婦の関係を浮き彫りにするために、同じような出生率の問題を克服し、ジェンダー格差がほとんどないフィンランドの夫婦と比較する。

2. 研究の目的

セクシュアリティを含めた夫婦関係が乳幼児を持つ若い夫婦の出生力とどう関連しているかを、フィンランドの夫婦との比較を行い明らかにする。

3. 研究の方法

国内で予備調査を行った後、本調査として、混合研究（質問紙調査とインタビュー調査）を日本とフィンランドで行う。対象者は乳幼児を持つカップルとするが、カップルは別々に調査を行う。質問紙調査の項目内容は、属性、夫婦関係尺度項目（ノートン尺度を使用）、セクシュアリティ尺度項目（ISSを使用）、夫婦の役割分担、伴侶性に関する項目を入れる。インタビュー調査は半構造的面接であり、夫婦関係、セクシュアリティ、子どもの出生力を中心に聞く。

4. 研究成果

日本とフィンランドでのデータ収集が、2019年3月末ですべて終了した。2019年5月現在、データの分析中である。研究成果として2つを予定している。第1段階として、データ比較の信頼性と妥当性を高めるために、使用する尺度の因子分析を行う。第2段階として、第1段階の結果を踏まえて分析した結果を提示する。2019年度にこれらを終了したい考えである。よって、今回ここに公表できる成果として、予備調査の結果の一部のみを記す。

【サンプル概要】17組の夫婦

- 1) 年齢 (N=34): 20~24歳3名(妻2名、夫1名)、25~29歳11名(妻7名、夫4名)、30~34歳12名(妻6名、夫6名)、35~39歳6名(妻1名、夫5名)、40歳以上2名(妻1名、夫1名)
- 2) 教育歴 (N=34): 高校まで10名、専門・短大9名、大学以上15名
- 3) 結婚年 (N=17): 3年未満9組、4~6年8組
- 4) 暮らし向き (N=34): かなり余裕0名、少し余裕14名(妻8名夫6名)、少し余裕ない17名(妻7名、夫10名)、余裕ない3名(妻2名、夫1名)
- 5) 子どもの数 (N=17): 1人10組、2人6組、3人1組
- 6) 一番下の子どもの年齢 (N=17): 0歳4組、1歳10組、2歳2組、3歳1組
- 7) 理想とする子どもの数(妻): 3人は7名、4人は10名、(夫)3人は9名、4人は7名、5人は1名

【次の子どもを考えているかどうか】

- 1) 現在子ども1人10組中、10組が考えている。
- 2) 現在子ども2人6組中、2組が考えていて、4組が迷っている。
- 3) 現在子どもが3人1組は4人目を迷っている

- ・子どもが複数欲しい理由は、きょうだいがいた方がよい、男女の割合
- ・子どもを持つ困難は2人までではなく、3人目、4人目から経済面に悩む
- ・2人目の壁はない

【夫婦関係満足】N=34(17組)

満足度について6項目・4件法(尺度のクロンバック係数 妻0.90、夫0.82)

0~100点に換算(点数が高いほど満足度が高い)

妻も夫も平均点は81.4点であった。

妻も夫も100点とした夫婦は2組、妻も夫も75~99点5組、妻も夫も75点未満4組

【セクシュアリティ満足】(N=32、16組と1名)妻1名は欠損値が多く分析から削除。
性生活について25項目・5件法(尺度のクロンバック 係数 妻0.88、夫0.87)
0~100点に換算(点数が高いほど満足度が高い)
妻の満足度 平均64.9点 夫の満足度 平均点71.9点

【夫婦関係満足とセクシュアリティ満足】(N=32、16組) Spearman 順位相関 *有意差あり
・夫婦関係満足についての妻と夫との相関係数 0.532 (*p=0.039)
・セクシュアリティ満足についての妻と夫との相関係数 0.791 (*p=0.002)
・夫婦関係満足とセクシュアリティ満足の相関係数(妻) 0.281 (p=0.27)
・夫婦関係満足とセクシュアリティ満足の相関係数(夫) 0.565 (*p=0.018)

【性生活満足の推移】

- ・子ども1人(妻N=8): 子どもの誕生に関係なし2名、子どもの誕生とともに満足度が下がった6名
- ・子ども1人(夫N=10): 子どもの誕生に関係なし1名、子どもの誕生とともに満足度が下がった9名
- ・子ども2人(妻N=7): 子どもの誕生に関係ない1名、子どもの誕生とともに満足度下がった4名、満足度上がった1名
- ・子ども2人(夫N=6): 子どもの誕生に関係ない3名、子どもの誕生とともに満足度下がった3名、子どもの誕生とともに満足度上がった0名

【性生活の頻度】

- ・子ども1人(妻N=9、夫N=10): 子どもの誕生とともに下がる妻7名、夫9名 変化なし妻1名夫2名
- ・子ども2人(妻N=7 夫N=6): 第1子の誕生とともに下がる妻7名夫6名 変化なし夫1名
- ・子ども3人(妻も夫もN=1ずつ): 第1子誕生とともに下がる1名ずつ

【性生活の重要性】

- ・重要・どちらかといえば重要 妻17名 夫16名
- ・重要でない 夫1名

【夫婦にとっての性の意味】妻も夫も同順位

- ・1位 愛情表現 2位 ふれあい・コミュニケーション 3位 子ども作り

【夫婦の伴侶性】

- ・「話をよくする」「買い物と一緒にする」が多い。
- ・「2人だけで食事等にでかける」はかなり少ない。

【夫婦の絆の意味】質的に分析

妻 1位 相手への愛情・思い 2位 子ども
夫 1位 子ども 2位 相手への愛情・思い

【研究の限界について】

ここに公表した結果は日本の1つの地域の34人の乳幼児をもつご夫婦がサンプルであるため、一般化はできない。乳幼児を持つご夫婦の1つの傾向はあるかもしれない。本調査では、複数地にまたがるサンプルであり数も多いため、ご関心のある方は本調査の結果(今年度公表予定)を参照して下さい。

5. 主な発表論文等

2019年6月に日本「性とこころ」関連問題学会にて成果の1部を発表する。現在、第1段階の結果について論文を執筆中である。第2段階の結果の公表は今年度後半期となる予定である。

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：矢野美紀

ローマ字氏名：Yano Miki

所属研究機関名：広島都市学園大学

部局名：健康科学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：80347624

研究分担者氏名：伊藤良子

ローマ字氏名：Ito Ryoko

所属研究機関名：県立広島大学

部局名：保健福祉学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：70594430

研究分担者氏名：小林敏生

ローマ字氏名：Kobayashi Toshio

所属研究機関名：広島都市学園大学

部局名：健康科学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：20251069

研究分担者氏名：吉田彰

ローマ字氏名：Yoshida Akira

所属研究機関名：県立広島大学

部局名：保健福祉学部

職名：名誉教授

研究者番号（8桁）：30136113

(2)研究協力者

研究協力者氏名：Katri Vehviläinen-Julkunen

ローマ字氏名：

研究協力者氏名：水馬朋子

ローマ字氏名：Mizuma Tomoko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。